



ROTARY
WEEKLY
NEWS

事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
会長：井上 修 副会長：鈴木一比古 幹事：加藤 篤 公共イメージ向上委員長：澁谷恵二

<p>UNITE FOR GOOD</p> <p>よいことのために 手をとりあおう</p>	<p>2025-2026年度 RI会長メッセージ</p> <p>よいことのために手をとりあおう</p>	<p>2025-2026 RI会長 フランチェスコ・ アレツォ <イタリア></p>	
<p>第1762回例会 令和7年12月9日(火)</p>			

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 翔け 中央ロータリー 伊藤かおりソングリーダー



■ ゲスト・ビジター紹介

- ・現代アーティスト 高島まきこ 様
- ・支援留学生 ジュイエソン 様

■ 会長談話 井上修会長



日本が世界に冠たるものにアニメがあります。ドラえもんは世界のキャラクターであり、サッカーの名選手・ジダンやメッシはキャプテン翼にあこがれサッカーを始めたと言います。アタック NOI はあこがれたイタリアの選手達をオリンピックの金メダルにしました。現在では進撃の巨人があこのウクライナの人達を癒し、ジンバブエでは貧困の子供達に生きる希望を与えています。日本人の根底にある価値観は今や世界

を救う価値感です。



欧州、アジア、南米などほぼ全世界でテレビ放映されている



もし ONEPIECE に出会わなかったら？
そんな人生想像出来ない

■ ニコニコボックス

- ◆井上修 高島さん、3年前のグローバル補助金事業での卓話にいたく感動し、今日の卓話をお願い致しました。あの感動を再び、今日もよろしく願いいたします。
- ◆加藤篤 高島 マキコ様、ようこそお越し下さいました。ありがとうございます。
本日は卓話、よろしく願いいたします。
- ◆橋爪麻人 高島さん、卓話お願いいたします。お父様がパイロットで空を見るのがすきだったと聞いて、ファンになりました。
- ◆矢島宏 自分でもびっくり。ソフトボールに55年も携わってきました。指導者として長くやっていたらもらえた県社会体育功労者表彰です。
いろいろな人を誘致したときには皆さんの協力をいただき、役を全うすることができました。本当に感謝です。ありがとうございます。
- ◆池田幸平 8月に半月間苦しめられていた猛烈な歯の痛みで、懸案だった埋伏歯（まいふくし）の親知らず。昨日入院して喜寿にしてようやく抜歯しました。これで心配なく、余生がくられます。
- ◆小椋文成
企業PR. 12月11日（木）10時から16時で、伊那商工会館1階大ホールにてメーカーと共催、伊那商工会議所後援で、「防災フェス IN 伊那」を開催します。実際に防災品をみて、触れることができる催しになっていますので、お時間が合えば是非来場ください。参加費はかかりませんが、来場土産の準備などございますので、可能であれば本日配布している申込書に記入いただき、FAX送付いただくと助かります。よろしく願いいたします。

■ 幹事報告

加藤篤幹事

幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 委員会報告

・12月7日（日）地区補助金管理セミナーの報告 小椋文成次期ロータリー財団副委員長



まず、小林ガバナー・橋上ガバナーエレクトから挨拶がありました。

続いて伊藤ロータリー財団委員会委員長より財団についての説明をいただきました。

そして25-26年度地区補助金事業の実施状況について滝澤義一郎補助金小委員会委員長より説明がありました。

マニュアルの改訂事項について重点的に説明がありました。

地区補助金とは会員からいただいた年次基金への寄付を3年間財団の専門チームによって運用され運用益を出し、運営の資金となり3年後に50%を国際財団活動資金（グローバル補助金）と地区財団活動資金DDFとなって戻ってくる。それが皆さんのクラブで事業に活用されます。地区財団活動資金は小規模短期の事業に充てられます。長期事業についてはグローバル補助金に申請いただきたい。各クラブではどのような事業に活用できるかが授与と受託の条件に基づいて決められる。事業資格のある活動は奉仕プロジェクト・奨学金・青少年プログラム・職業研修チームの派遣などですが、その他については補助金マニュアルを確認してください。

マニュアルの中で継続的事业についても決められている。同じ事業を継続する場合適用されない。3年間続けた事業については5年間実施できません。同一の受益者・事業内容がほぼ同一とみられるものも対象となります。

交換留学生について継続とみられるかという質問があるが受益者が変わるので継続とみられないがクラブの活性化につながるためNGとなる場合があるので注意をしてもらいたい。

支給額などについては53Pに補助金額が示されているので確認をお願いします。PC150ドル以上のクラブに2300ドルを目途に支給額を決めています。ただし、基本金額は年度で変わっていくので注意してください。参考までに各クラブのPC額を確認すると判断しやすいと思います。

どのように申請するかですが、補助金を受領するには条件があり本日のセミナーに参加することがまず挙げられます。MOUの提出をして頂きます。MOUとはロータリー財団と各クラブとの誓約書となります。1

月末までに会長・会長エレクトのサインをして提出していただきます。続いて申請書に添付書類をそろえて3月10日までに提出していただきます。書き方についてはマニュアルを確認してください。

マニュアルの説明

P4に地区補助金のシステムについて書かれているので確認してください。

P5にグローバル補助金と地区補助金について書かれています。

選考基準についても書かれているので確認してください。継続事業についても書かれています。

P9には管理方法について書かれています。

P11には授与と受託の条件について書かれているので重要なので確認してください。

募金活動・広報活動などは対象になりません。またロータリー関係者が所有者・受益者となる物品の購入はできません。無報酬で活動することを他者に要求することもできません。そして用途に関するすべての領収書と銀行取引明細書のコピーを5年間保管する必要があります。複数クラブでの申請の方法は変わりません。事業承認後の受益者の変更、内容の大幅な変更などは再申請が必要になります。

本年度のスケジュールはマニュアルP50に記載されています。

セミナー参加→MOU提出(1月31日まで)→申請書提出(3月10日・添付資料も)→選考会(4月)→ロータリー財団に一括申請(5月)→財団から地区に入金→各クラブに送金→事業開始となります。

補助金送金前にプロジェクト開始は出来ないの注意してください。またRIに申請される際プロジェクト名が英訳されますので、対象者・内容が分かりやすいように簡潔にしてください。

続いて管理会計について村田財団資金管理会計小委員長から説明がありました。説明書は各クラブへ送付してあるので確認をお願いします。補助金管理の厳格性については授与と受託の条件にありますが、ロータリーの趣旨に合うものであることが前提です。MOUの内容に沿って管理を行うことを求められます。

P9に管理の手順がありますので確認をお願いします。プロセスについてはP50にあります。7月に地区補助金説明会があるので参加をお願いします。P38以降に各クラブの補助金管理規定を作成してください。プロジェクトの開始前7月1日で策定をお願いします。管理口座の作成をして頂きますが6月30日までに残高を0にしてください。続いてP38にあるように引継確認書を作成してください。日付は事業終了後の日付にしてください。

補助金入金後の管理についてはマニュアルを確認してください。なお、出金についてはまとめて現金で行うのではなく、支払ごとに現金をしてください。1点、注意をお願いしたいですが報告書の提出期限4月10日までに事業が終わらなかつたケースがありますが、基本的に4月10日までに事業を終了して報告書を提出するようにお願いします。

P45に報告書に添付する資料のチェックリストがありますが、このチェックリストも報告書に添付の必要がありますが、未提出が多いので注意をお願いします。

次にグローバル補助金の申請について、乾みゆ紀グローバル補助金推進小委員長から説明がありました。グローバル補助金についても以前と異なってきました。

1点目、中長期的にグローバルな視点で行う。3万ドルから40万ドルという高額な補助金を申請できる。持続可能なインパクトをもたらす事業であることが条件になります。3つの柱で申請可能。地区では奨学生の補助金、大学院以上の奨学生を支えている。人道支援ということで実施国との共同申請をしている。専門職をチームで派遣する事業を申請しているので各クラブで希望があれば参考にしてください。基本ロータリーの7つの重点分野に伴っている必要があり、それに基づいてプロジェクトを計画していただきたい。日本では水と衛生の分野での申請が多いようです。世界的には平和・環境の分野が多いようです。まとめてアップデートされた資料がありますので、後ほど展開します。P16から申請についての説明があるので確認をお願いします。変更点は赤字表記があるので再度確認してください。

続いて下形資金推進小委員長より寄付の推進、大口寄付・ロータリーカードについて説明がありました。2600地区の寄付については年次基金1人150ドル目標については昨年139.4ドルで若干届きませんでした。今年度については44.8ドル、0クラブは20クラブという状況です。

ポリオプラスは1人当たり30ドルの目標に対して30.79ドルで達成しましたが0クラブが2クラブでした。本年度は13.91ドル、0クラブは22クラブという状況です。

平和センターについては1人当たり200円に対して268.5円で達成しました。本年度は110.22円という状況です。恒久基金は1クラブ1000ドル目標に対して199.42ドルでした。本年度は28.3ドルという状況です。

大口寄付についてメジャードナー(累計1万ドル)は80人、レベルについてはレベル1が67名、レベ

ル2が8名、レベル3が4名、レベル4が1名という状況です。寄付の認証についても説明がありました。ロータリーカードはアメリカで2000年、日本では2003年に作られました。世界で13か国が行っていましたが、現在は日本のみとなっています。種類はオリコマスターカード、ダイナースクラブがあります。個人カードは利用額の0.3%、法人カードは利用額の0.5%がポリオ根絶支援資金に入ります。前年度の利用額は2200クラブ29億634万円でした。(ダイナース14億9千万円・オリコ14億①千万円)2600地区は保有枚数オリコ70枚・ダイナース21枚となっています。お持ちでないクラブは所有を検討していただきたい。

最後に小山ポリオプラス推進小委員長よりポリオプラス・ロータリー平和フェローについて説明がありました。現在ポリオ常在国がパキスタン29人・アフガニスタンが9人となっています。

説明終了後に質疑応答が行われました。

・12月7日(日) 青少年育成基金説明会の報告 井上修会長

青少年育成委員会・折井委員長に与えられたのは、9時半から11時半の内、最終の11時20分から10分のみ。最初からこの時間配分だったのか疑問を呈する。前半の財団のセミナーはこのセミナーを聞かないと補助金は出せないと何回も繰り返され、改めて言う必要があるのか甚だ聞き苦しく、且つ他の論者は時間の配分がなされていないのか冗長に過ぎる風もあり甚だ無駄な不愉快な時間であった。

そんな中、折井委員長のプレゼンは見事の一言、且つ短時間で充分理解が出来た。

2600地区の青少年育成基金は1996年～1997年の3100名のロータリアンが一人10,000円5年間積み続け達成された基金が原資であり1.5億円が計上されている。他の基金とは異質な基金である。目的は青少年が社会性・国際性を身に着け成長する為の助成である。ルールは事業主体はRCで公共イメージ向上に資するプロジェクト。地区は500万を限度にクラブ一事業20万を限度に助成。日程・令和8年5月末までに申請。8月末までに交付。令和9年月末までに実施報告書と決算報告書提出。実施なき場合は同日までに理由書を付け返金する事。

■ 卓 和

・卓話者紹介 井上修会長

高島まきこさんです。アート名は高遠まきさん

長野県生まれですが、多彩な方で社交ダンスのプロダンサーでもあります。が、海外にも留学され、ロンドン芸術大学で舞台芸術、ロンドン大学で哲学、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートを首席で卒業と言う輝かしい経歴の持ち主です。日本とイギリスを拠点に個展も各所(2024・東京、2017・2018・イギリス、2023・2024 大阪、2023・名古屋と開催されています。2016年にロータリー財団グローバル奨学生として欧州に留学されています。3年ほど前にグローバル補助金で留学された帰朝講演を聞かせて頂き感激致しました。伊澤会員にその話をしましたら「例会に来て頂こう」となり、恐る恐る依頼しましたら「いいですよ」と二つ返事で今日があります。

・卓話：現代アーティスト 高島まきこ様



高島まきこと申します。アーティスト名は出身地にちなんで「高遠 まき」として作品を提供しております。

本日は、お招きいただきましてありがとうございます。

私は伊那出身ですが、父親が自衛隊のパイロットをしていた関係で父親の転勤に伴って日本のいろいろなところで育ちました。

大学を卒業後日本の製薬会社にOLとして6年間勤務しており、「人々の健康と幸せへの貢献」について考えはじめ、勤務先の関係で「医療を通じた社会貢献の実現」を果たしたいと思いはじめ海外のビジネススクールへ進学を考えました。

実際に海外の大学のオープンキャンパスをいくつか巡ることで創造性をもって新しい価値を生み出し、社会に貢献したいと考えが変わり、イギリスのロンドン芸術大学に留学しました。さらに違う観点から芸術を学びたいと考えロンドン大学ゴールドスミス・カレッジで哲学とデザインを学びました。

イギリスの大学で学ぶ中で、どうしても「ロイヤル・カレッジ・オブ・アート」で学びたいと思いましたが、すでに貯えが底をつく状況で困っていると、ロータリー財団が奨学金を提供してくれると紹介してくれる方がおり、日本で申込みをしたところ松本空港RCを通じて財団奨学金を受けられることになりロイヤル・カ

レッジ・オブ・アート情報体験デザインコースで学ぶことができました。本当にロータリー財団からの支援のおかげで今の私があると思います、また、大変に感謝しており、ロータリークラブとのつながりを今も続けております。

イギリスの大学で驚いたことに、日本では絵が好きなのや上手い人が芸術大学に進学しますが、海外のアートスクールは好きや上手いよりもプロセスやコンセプトを重視しますから、デッサンの試験などはありません。自分の発想・信条・思考を伝えることが重要になります。

ところで、皆さんは西洋絵画のヒエラルキー（格式）をご存知でしょうか？

実は西洋絵画には「歴史画」を最高位として以下「肖像画」・「風俗画」・「風景画」・「静物画」の順でヒエラルキーがあります。

また、1960年中頃から1970年代にこの写真（写真①）のように便器を作品に仕立てたようなコンセプチュアルアートが確立されアーティストの思考プロセスが作品の中心に置かれるようになりました。その後は「目で見える芸術」から「観念の芸術」へ変化を遂げており、革新性が尊重されるようになります。

この芸術の変遷を学ぶ中で、私自身の作品も多様になりました。

この作品（写真②）は実際に私が創った作品を私自身が身にまとい街を歩いた時の様子で、インタラクティブアート（相互反応する）作品です。また、こちらは（写真③）は、全身を360°スキャンして3Dデータを基に創った作品でインスタレーション（空間芸術）です。割れた鏡の中に鑑賞者を映し出して作品（写真④）にするものや、南極の氷を溶かしながら布に模様を染めた作品（写真⑤）も創りました。

最近、駒ヶ根市東伊那にある養蚕古民家を購入してリノベーションを行う古民家再生プロジェクトを開始しました。皆様も機会がありましたらプロジェクトに参加し、是非お越しく下さい。

本日はお招きいただき、私の拙い話をご清聴して頂いたことにお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

・質疑応答



■ 出席報告

会員数40名 出席免除会員4名 長欠会員1名 本日出席者（例会場）23名（ZOOM）1名
事前メイク0名 出席率68.57% 前回出席率 修正なし

■ 点 鐘

13:30

次回例会

12月16日（火） 点鐘／18:00 場所／JA フラワーパレス
・年末家族例会